

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実  
 施策 青少年健全育成の推進  
 基本事業 青少年健全育成活動の充実

事業名 **青少年キャンプ村事業**

[0467]

部名	教育部	事業開始年度	昭和43年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内の小学校 4年生から中学校 3年生の児童 生徒</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>野外生活、集団生活の楽しさ、規律のある生活態度、生活術を学ぶとともに異年齢の交流から子どもたちの協調性、社会性を高める。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>自然体験事業として日常の生活から離れ、自然豊かな環境の中で青少年キャンプ村を開設し1泊2日の日程で、大学生、高校生のボランティアサークルのリーダーの指導によりキャンプを行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	市内の小学校 4年生から中学校 3年生の児童および生徒数	人	7,629	7,656	7,428	7,428
対象指標2						
活動指標1	キャンプ村開催日数	日	5	5	5	5
活動指標2						
成果指標1	参加グループ数	グループ	128	107	98	125
成果指標2	青少年キャンプ村参加人数	人	695	578	536	700
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	441	827	826	879
正職員人件費 (B)		千円	2,075	2,015	2,007	2,023
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>2,516</b>	<b>2,842</b>	<b>2,833</b>	<b>2,902</b>

費用内訳	
23年度	報償費 342千円、需用費 80千円、備品購入費 404千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	昭和43年開始	事業を取り巻く環境変化	H20年度で40年目を迎えた伝統のある事業であり、江別市の子ども達にとって夏休みには欠かすことのできないイベントになっている。森林キャンプ場は、札幌近郊にある整備されたキャンプ場として利用者が年々増えてきている。
--------	---------	-------------	--

## 23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

夏休みの自然体験事業として、子どもと保護者の関心、期待が高く、少子化の中参加者の減少もなく健全育成事業として妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

1泊2日の宿泊を通し、青少年サークル（ボランティア）の指導のもと、体験学習や団体生活、異年齢との交流を図り、子ども達の豊かな人間性・社会性づくりに貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・  
根拠は？

参加児童・生徒及び保護者の満足度は高く、青少年の交流の場としての成果が大きい。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

道立野幌森林公園を後背地にしたキャンプ場であるため、森林公園の特性を利用した自然とのふれあい、体験学習等の活動プログラムを充実させる余地がある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・  
根拠は？

関係団体等への補助や委託などで職員人件費等は十分に圧縮されており、ボランティア団体への報償費および賄材料費の削減はこれ以上困難であるため、削減の余地はない。